



日本証券業協会
Japan Securities Dealers Association

ICMA年次総会カンファレンスにおけるトランジション・ファイナンス に関するラウンドテーブルの開催等について

日本証券業協会

ICMA年次総会カンファレンスにおけるトランジション・ファイナンスに関するラウンドテーブルの開催について①



本年5月27日（水）～29日（金）に開催された国際資本市場協会（ICMA）年次総会カンファレンス（於ロンドン）のプログラムの一つとして、**日本のトランジション戦略や国際協調の意義等を発信**することを目的とした海外市場関係者向けのラウンドテーブルを開催。多くの市場関係者が出席し、活発な議論が行われた。

タイトル	トランジション・ファイナンスの推進に向けた国際連携の強化：日本、英国の知見とリーダーシップからの洞察 (Strengthening global synergies to advance transition finance: Lessons and leadership from Japan and the UK)
日 時	2026年5月29日（金） 午前10時45分～11時30分
場 所	ICMA年次総会カンファレンス 会場内会議室
参加者	約60名： 海外機関投資家・発行体、金融機関、格付機関、サステナブル・ファイナンス関連団体、 日本政府関係者（経済産業省、財務省、GX推進機構）、英国政府関係者等
当日の 主な内容	①開会の辞： ICMA 副チーフ・エグゼクティブ（サステナブル・ファイナンス統括） ニコラス ファフ 氏 <司会> ②開会挨拶： 日本証券業協会 副会長・専務理事 松尾 元信 ③トランジション・ファイナンス市場の拡大に向けた日本の取り組み： 経済産業省 審議官（脱炭素成長型経済構造移行推進担当） 福本 拓也 氏 ④CT国債とグリーンアムムの現状： 財務省 理財局 国債業務課長 城田 郁子 氏 ⑤GX推進機構の活動等： GX推進機構 理事 高田 英樹 氏 ⑥英国政府におけるトランジション・ファイナンスの取組み： 英国財務省、トランジション・ファイナンス評議会、 金融行為規制機構（FCA）等 ⑦自由討議・質疑応答

ICMA年次総会カンファレンスにおけるトランジション・ファイナンスに関するラウンドテーブルの開催について②

海外参加者からの発言等 (要約)

- トランジション・ファイナンスは大きな市場機会。必ずしも厳格な規制が有効であるとは限らず、むしろ、信頼性の高いプリンシプル・ベースの市場慣行の整備、国際的な整合性・理解の確保が重要である。
- 「トランジション」の定義は地域ごとに異なり、特に欧州とアジアでは経済的な状況や課題認識に差異がある。こうした違いを踏まえた共通理解が必要であり、ICMAとしてはグローバルな視点で議論する重要性を認識している。
- セクター別の移行計画の提示、公的投資の役割の明確化等、トランジション・ファイナンスにおける投資の予見可能性を高めることが重要。実体経済と金融の接続を意識した官民の協働が成否の鍵を握っている。
- 日本は政府・産業界・金融機関が一体となったトランジション推進モデルを構築し、先駆者的存在と認知されとともに、他国の実践的なベンチマークの一つとなっている。
- リターンやインセンティブ等によるさらなる投資需要の喚起が課題。投資リターンや政策的インセンティブが十分でなければ資金は流入しない。
- 投資家と発行体のマッチング不足や評価指標・データの不足等により、市場は依然として発展途上だが、トランジション・ファイナンスは共通言語の整備が進みつつあり、今後はセクター別の政策など実務に則した制度設計の重要性が増してくるであろう。



(参考) 第58回 ICMA年次総会・カンファレンスの概要

開催日程

2026年5月27日（水）～29日（金）

参加機関・者

ICMA会員、協賛団体他 約1,300名（登録ベース）

開催地

ロンドン
（英国）

今回のポイント

- 本協会では、国際資本市場協会（ICMA）との連携強化の観点から、従来よりICMA年次総会に協賛団体としてブース出展を行って協会の活動・日本市場のプロモーションを実施しているほか、総会にあわせて開催されるカンファレンスに参加している。
- 本年のカンファレンスでは、欧州証券市場監督機構(ESMA)・ロス長官、英国中央銀行・ブリーデン副総裁、経済産業省・福本審議官らによるスピーチほか、多くのパネル討議、個別セッションが設けられた。また、レセプション、ブース展示等によるネットワーキングの機会も提供された（プログラムは4～5頁ご参照）。
- 次回会合はイタリアにて開催予定。



カンファレンス会場の様子



出展ブースの模様

【参考】ICMA総会プログラム①

[5月27日(水)・28日(木)]



15:00- 17:00	ICMA年次総会（※総会のみ5月27日(水)に開催。総会は議決権を有するICMA会員のみ参加）
9:00- 9:05	カンファレンス1日目（開会の辞：ブライアン・パスコー ICMAチーフ・エグゼクティブ）
9:05- 9:15	基調講演①：サラ・ブリーデン イングランド銀行副総裁（金融安定担当）
9:15- 9:55	パネル討議：転機を迎える世界の金融市場（地政学リスク、市場、資本流動の観点から）
9:55- 10:15	基調講演②：チャールズ・マイヤーズ シグナム・グローバル会長兼創設者
10:15- 10:30	個別セッション：ワシントンからの洞察と欧州への影響
10:30- 10:40	基調講演③：サマラ・コーエン ブラックロック シニア・マネージング・ディレクター（市場開発担当）
11:10- 11:50	パネル討議：債券市場の未来
11:50- 12:30	個別セッション：バイサイドのトレーディングデスク（流動性、テクノロジー、執行） / 債券市場監視におけるAIガバナンス
13:30- 14:00	基調講演④：ダニーロ・マクギャリー AI専門家・起業家
14:00- 14:40	パネル討議：AI、トークナイゼーション、デジタル通貨 - 資本市場の次なるフロンティア
14:50- 15:30	個別セッション：変革期のレボ市場（レジリエンス、清算、今後の展望） / 証券化市場の強化 - 規制等の役割
15:30- 16:15	個別セッション：複雑な仕組債の管理
16:00- 16:40	個別セッション：欧州のCP市場の拡大 / プライベート・マーケット - 新たな市場エコシステム
16:50- 17:20	パネル討議：新たな取引情報インフラ - 債券市場への影響
17:20- 17:35	基調講演⑤：ヴェレナ・ロス 欧州証券市場監督機構(ESMA)長官
17:35- 17:40	閉会の辞

(参考) ICMA総会プログラム②

[5月29日(金)]



9:00- 9:05	カンファレンス2日目（開会の辞：ジャラット ICMAマネージングディレクター兼フィンテック・デジタル化部門責任者）
9:05- 9:15	基調講演⑥：フィリップ・アギヨン コレージュ・ド・フランス教授（2025年ノーベル経済学賞受賞者）
9:15- 9:30	個別セッション：成長と競争力の促進（規制と債券市場の役割）
9:30- 9:40	基調講演⑦：アロク・シャルマ 英・上院議員（元・産業相）
9:30- 10:30	個別セッション：人民元建て債券担保のクロスボーダー利用
9:40- 9:50	基調講演⑧：福本拓也 経済産業省 審議官（脱炭素成長型経済構造移行推進担当）
9:50- 10:30	パネル討議：サステナブル債券市場の進化（トランジションへの資金調達）
10:30- 10:45	個別セッション：新たな世界秩序下における持続可能性
10:45- 11:30	個別セッション：トランジション戦略に関するラウンドテーブル
11:15- 11:30	個別セッション：人民元の国際化
11:30- 12:10	パネル討議：グローバルな債券市場の活性化に向けて
12:10- 12:25	個別セッション：新たな資本市場インフラにおける勝者と敗者
12:25- 12:45	基調講演⑨：ジョン・プリント 元HSBCグループCEO
12:45- 13:15	パネル討議：もしAIが18ヶ月以内にホワイトカラーの仕事のほとんどをこなせるようになったらその先はどうなるか？
13:15- 13:25	基調講演⑩：ロバート・アシュリー 退役米軍中將（元米国防情報局（DIA）長官）
13:25- 13:30	閉会の辞：ブライアン・パスコー ICMAチーフ・エグゼクティブ

※このほか、27日（水）および28日（木）夜にレセプションが開催された。

(参考) 国際資本市場協会 (ICMA) について



- ・国際資本市場協会（ICMA）は、欧州を中心に世界約70カ国、約600の金融機関が加盟する国際団体であり、国際的な資本市場の発展に寄与している。チューリッヒ及びロンドンに本部を置いている。
- ・本協会とは2008年に業務協力のための覚書（MOU）を取り交わしており、日本証券サミット（ロンドン開催）及び年次サステナブル・ボンド・カンファレンスを定期的に共催している。
- ・2025年11月には、ICMAのグリーンボンド原則の策定・改訂を採択し、サステナブルファイナンス市場に関して議論が交わされる「ICMA原則年次カンファレンス（Annual Conference of Principles）」を日証協との共催により、日本で初めて開催した。
- ・また、ICMAのアジア太平洋地域事務所は、本協会が常設事務局を務めるアジア証券人フォーラム（ASF）にメンバー機関として加盟している。

